



名古屋第二赤十字病院整形外科

愛知県名古屋市昭和区妙見町2-9
http://www.nagoya2.jrc.or.jp

副院長、脊椎脊髄センター長 佐藤 公治

名古屋第二赤十字病院は、1914年に結核療養所として設立され、1950年に名古屋第二赤十字病院と改称された。1960年全229床で一般診療を開始し、1969年に総合病院となって整形外科外来が開設された。現在では全812床(うち一般810床、第一種感染病床2床)を擁する総合病院である。また、2005年には愛知県下では初めての「地域医療支援病院」として承認され、地域のかかりつけ医を第一線の医療機関と考え、協力し、より良い医療を提供し続けている。

最新機器を駆使した高度な先進医療を提供



佐藤 公治

1983年に徳島大学医学部を卒業後、名古屋大学整形外科へ入局し、1999年に名古屋第二赤十字病院整形外科部長として赴任しました。脊椎脊髄外科を専門としています。

現在、整形外科のスタッフは13名で、運動器疾患全般の診療を行っています。特に脊椎脊髄疾患の治療に力を入れており、入院患者さんや当科で行う手術の3分の1は脊椎脊髄疾患となっていますが、関節外科の手術症例も関節鏡手術を含めて年々増加しています。また、救急病院として、毎日整形外科医1名の当直とオンコール1名が待機して時間外の救急に対応し、多発外傷、高エネルギー外傷など、整形外科関連の三次救急にも応需しています。

高齢者の骨折は、長期臥床を避けることが望ましいので、可能であれば入院当日または翌日に手術を行い、早期離床に努めています。腎移植後の患者さんや長期透析を行っている患者さんなどといった特殊な運動器疾患も、血液浄化センターや移植外科に協力していただき、積極的な手術治療を行っています。

脊椎脊髄手術については、内視鏡、脊椎手術ナビゲーション、脊髄モニタリング、カラードブラ装置など最新の機器を駆使して、最小侵襲脊椎安定術(MIST)を行っています。当院は、日本脊椎脊髄病学会クリニカルフェロー認定施設で、MISTトレーニングセンターにもなっています。

最新機器を駆使した高度な先進医療を提供するとともに、

保存療法も行っています。痛みを伴う運動器疾患、特に脊椎脊髄疾患の慢性疼痛には、オピオイドなど新しい薬剤も処方していますが、痛みが強い時にはロキソニンなどのNSAIDsを使用します。ただ、NSAIDsは胃腸傷害が懸念されますから、ムコスタ®などの胃粘膜防御因子増強薬を併用することになっています。

病病連携・病診連携を積極的に推進

地域連携を重視し、病病連携および病診連携を積極的に推進しています。医師中心の「八事整形会」を1999年に、コメディカル中心の「八事整形医療連携会」を2002年に発足しました。これらの地域連携の会や市民講座の会を元に発展的に拡大し、2011年には「特定非営利活動法人名古屋整形外科地域医療連携支援センター」を設立しました。地域医療のスムーズな連携、医療者のモチベーションを上げることによって社会貢献につながると考えています。

院内では神経内科と月に1度、症例カンファレンスを開催していますし、患者さんのリハビリテーション指示などを介して、リハビリ科と密接にかかわっています。そのほか、整形外科は日本赤十字社の使命である国内災害救護や国際医療救援にも関連が深いため、スタッフを現地や訓練などに積極的に派遣しています。

専門により特化した診療を

2014年4月から整形外科のなかで脊椎脊髄外科は脊椎脊髄センターと名称を変更し、関節外傷外科と分けて、専門により特化して紹介患者さんを中心に診療することになりました。脊椎脊髄外科と関節外傷外科の特徴をより鮮明に打ち出して、両立していきたいと考えています。



整形外科スタッフ



最新の機器を駆使した手術